



第7回 DAY表彰式

文=小林智世・清水裕・野仲裕子(ともに本誌) 写真=望月厚志(本誌)

同窓生のリユニオンを後押ししようと始まった、同窓会主催の桜祭りも今回で7回目。 DAY受賞者たちの多彩な活躍は、ICUでの学びが切り拓いたさまざまな可能性を同窓生に 見せてくれます。

再会と新たな出会いが交錯する、当日の様子をレポートします。

3月31日、大学礼拝堂で2012年桜祭 りが開催された。

吹き荒れる強風にめげず集まった同窓生たちが着席する中、ICU OGOB 合唱団、ICU メサイアおよび現役学生有志が、オープニングとして毎年恒例となったハレルヤ合唱を披露(オルガンは大学オルガニストの菅哲也氏)。ICU 教会名誉牧師・古屋安雄氏による祈祷のあと、桜祭り第一部(同窓会総会・DAY 賞表彰式・卒業 50 周年記念式典)が始まった。

同窓会総会では、まず同窓会長および副会長より 2011 年度の活動・決算報告、2012 年度に向けた活動予定と予算案が発表され、今後は会員のコミュニケーション促進のための IT インフラ整備、学生の就職支援、そして大学の枠を超えた寄付や支

援を強化するという方針が示された。続い て役員選考会長の齋藤顕一氏(17)が、 同窓会定款の変更案を提示。定款が定める 業務内容と同窓会の実態・将来像とのずれ を是正すること、同窓会入会の資格を研究 生にも拡大すること、そして同窓会業務の 多様化と同窓生数の増加に伴う会長・副会 長の負担軽減のため、定款の変更が必要で あると説明した。最後に役員選考委員会に よる同窓生役員候補者の選考結果が示され た。いずれの議案も、出席した同窓生およ び事前に寄せられた委任状によって承認さ れた。同窓会長の永渕光恵氏(21 ID77)は、 これまでの同窓会が会員の親睦を深めるこ とに重点を置いたものだったと述べ、「今 後は会員のためというよりも、大学にとっ て意味のある同窓会を目指すことによって

結果的に会員の親睦も深まる、という活動 の仕方をしたい」と意気込みを語った。

総会に続き、DAY 賞表彰式が行われた。 受賞者7名の功績が紹介されたあと、受 賞者に前出の永渕氏より表彰状と記念品が 贈られた。受賞者7名(1名は欠席)はそ れぞれ壇上で短いスピーチを行い、ICU での日々や自身の活動への思いなどを語っ た。

そして卒業 50 周年記念式典。今年は 6 期の方が対象である。6 期を代表して永渕 氏から記念品を受け取った山岡清二氏 (6) は、「ICU の 特 色 は unique、adventure、奉仕の精神だと思う。こうした精神が息づく環境で多くのことを学んだ」と述べた。

大学理事長の北城恪太郎氏、学長(当時) の鈴木典比古氏による祝辞に続いて賛美歌 斉唱と祈祷が行われ、第一部は閉会となった。司会を務めた同窓生で日本テレビアナウンサーの菅谷大介氏(G1997)は、大学の正門から延びる道、通称「滑走路」で強風に見舞われたことに触れ、「滑走路で向かい風が強く吹くほど飛行機は飛びやすいそうです。皆様が風を受けて大空に飛び立ってゆくことを願いつつ閉会とさせていただきます」と締めくくった。

第二部の懇親会は会場をチャペルから新 大学食堂に移して行われた。同窓生が旧友 との再会を喜び合い、楽しげに歓談する様 子が、まだ真新しい食堂のあちこちで見ら れた。ピースベル奨学生の挨拶、昨年に同 窓会が主催した東北リユニオン@ 2011 の DVD 上映なども会場の雰囲気を盛り上げ、 最後は ICU Song の合唱でお開きとなった。



新大学食堂での懇親会



ラグビー部による「グラウンドを人工芝に」の呼びかけ



ICU Song の合唱



ピースベル奨学生の挨拶

DAY受賞者に、同窓生に向けてのコメントをいただいた。



下館和巳

SHIMODATE.Kazumi (22 ID78)

東北はICUと一見結びつかないですけど、実は中心に憧れないという部分で非常に近いと思うんですよ。でも最近のICUは少しブランド化していて、もっと初期の頃のように何事にも恐れない野性味みたいなものを持って欲しいと思っています。「神曲」の中で地獄から天国へ旅をするダンテに、彼の師ヴィルジリオが「恐れるな」と伝える場面があります。私も同じメッセージを同窓生の方々に伝えたい。さらに、続けてヴィルジリオは「私についてならに、続けてヴィルジリオは「私についてって前を照らしてくれる先生方が多かった。非常に感謝しています。

1979 年語学科卒。83 年大学院比較文化研究科修士課程修了。東北学院大学教養学部言語文化学科教授。シェークスピア・カンパニー主宰。演出家。英国エクセター大学留学(1976-1977)ケンブリッジ大学客員研究員(1992-1993/2002-2003)ロンドン・インターナショナルグローブ・アーティスチックフェロー(2002)。1992 年、東北に木造の劇場建築のヴィジョンを掲げて、シェークスピア・カンパニーを設立。以来、「松島湾の夏の夜の夢」「恐山のマクベス」「温泉旅館のお気に召すまま」「奥州幕末のハムレット」など東北の言葉と風土に置き換えた、独自の東北日本シェイクスピアを創り続けている。



ディルワース(福山)真智

DILWORTH, Machi (11)

今回の受賞は思いがけないものでした。
ICU がなければ今の私はありません。他とは違う新鮮な学風が今も続いていてうれしく思います。アメリカで多くの大学を見てきたのですが、アメリカでは学士のときリベラルアーツで学び、そのまま大学院に進む学生の比率が高いです。幅広く学ぶことでどんな専門分野に進んでも活躍することができます。こういった大学は日本ではICU のみです。そんな学び舎で、趣味の域をこえて活躍している同窓生を見たり知ることができるのはうれしい限りです。学生さんにはこのユニークさをフルに使って(take advantage of して)欲しいと思います

1967年自然科学科卒。卒業後 UCLA に留学。植物生理学 / 生科化学を専攻、71年博士号取得。ミシガン州立大学、ジョージア大学、the Smithsonian Radiation Biology Laboratory 等での研究生活を経て、79年米国国立科学財団(NSF)に就職し科学研究費を管理する Science Adoministrator の道に入る。81年から9年間米国農務省の競争的研究費部門勤務。90年 NSF に戻り現在に至る。2002年米国連邦政府高級職員への最高名誉であるPresidential Distinguished Rank Award 受章。



松井亮輔

MATSUI, Ryosuke (7)

私だけがこのような賞をいただいてしまっていいのか、と感じています。というのも、私の人生はICUでの出会いを通して拓けたからです。私が今の道に進むことになったきっかけは、学生時代、キリス子どもを守る会」を立ち上げたことでした。後にこの活動で出会った方に声をかけられて障害者就労支援施設の職員となり、それ以降もこうした誘いを受けて、障害のある人たちの問題に様々な角度から取り組む機会をいただきました。同窓生の皆さんも、人との交わりを大切にし、きっかけが現れた時にはチャレンジ精神を持って道を拓いていってほしいです。

1963 年社会科学科卒。社会福祉法人日本キリスト教奉仕団アガベ身体障害者作業センター生活指導員/施設長、国際労働事務局(ILO) リハビリテーション・アドバイザー(アジア太平洋地域担当)、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター・職業センター長などを経て、北星学園大学社会福祉学部教授、法政大学現代福祉学部教授を歴任。現在は内閣府障がい者制度改革推進委員会構成員を勧める。



千葉杲弘

CHIBA, Akihiro (1)

私が子供たち、そして同窓生の皆さんに 伝えたいのは、枠にはまらない、大きな夢 を見てほしいということです。そしてその 夢を学習、意識、行動に繋げてほしい。私 は「教育を通した平和の実現」という理念 に惹かれ、それを実践する人間になること を夢見て、まだ認可された大学ですらなか った ICU に入学しました。その夢はユネ スコで働くという目標になり、実際にユネ スコで世界の基礎教育・識字率の向上を推 進する仕事に携わることへと繋がりました。 私の夢は今、「ドリームじいちゃん」とし て、子供たちをインドネシアのスラムや被 災地に連れ出すツアーを実施する行動に発 展しています。今後も子供たちの学びや夢 を後押ししてゆきたいです。

1957 年社会科学科卒、59 年大学院教育学研究科修士課程修了。 1961 年から 31 年間国連のユネスコに動務、アジア太平洋地域 教育事務局次長、パリ本部教育局次長、事業調整局長 (事務局長 補) 等を歴任。ユネスコ引退後は ICU に教授、大学院教授、 COE 客員教授として 2008 年まで勤務。現在は同教育研究所顧問、 公文教育研究会顧問等を勤める。



栗山富夫

KURIYAMA, Tomio (8)

久しぶりのICUはすっかり変わっていました。私がいた頃は学生は一学年に14 〇人ほどで、寺子屋のような学園でしたので。第二男子寮にいたのですが、男女ともに地方出身の頭のきれる仲間に囲まれて、よく芝生に座って語り合っていました。映像研究会を立ち上げ映画を撮ったり MMSでトランペットをやっていたりもしました。入社した松竹大船で6年ぶりに行われた採用試験は、課題はわら半紙を何枚使ってもよいというテーマ「天下太平」についての4時間かけた自由な創作でした。この試験がICUらしくてご縁があり監督としてのキャリアがはじまることになりました。

1965 年社会科学科卒。卒業後、松竹大船撮影所に助監督として入社。「男はつらいよ 寅次郎春の夢」の脚本担当などを経て監督への道を歩み始める。監督第3作目の「祝辞」で芸術選奨文部大臣新人賞受賞。88年、のちに大人気シリーズとなる「釣りバカ日誌」のスターター監督となり、97年までに11作品を手掛ける。2000年から、暗雲たれこめる近未来の日本社会を見据えて、少子高齢化をテーマにした作品「ホーム・スィートホーム」の連作に善毛

吉野直子

YOSHINO,Naoko (34 ID90)

1990 年人文科学科卒。ハーブ奏者。1967 年ロンドンに生まれ、6歳よりロサンゼルスでスーザン・マクドナルド女史のもとでハーブを学ぶ。1985 年第 9 回イスラエル国際ハーブ・コンクール優勝。その後は、ソロ活動のみならず、ベルリン・フィル、小澤征爾、ギドン・クレメールなど国内外の主要オーケストラ、指揮者、ソリストと数多く共演を重ね、CD録音も活発に行っている。1988 年芸術祭賞、1989 年モービル音楽賞奨励賞、1991 年文化庁芸術演奨文部大臣新人賞ほかを受賞。



小池生夫

KOIKE,Ikuo (G1964)

今回の受賞、光栄に存じます。ご推薦く ださった方、選考に携われた方々、同窓会 に深く感謝します。また、私が賞をいただ いてよいのかと恐縮もしております。語学 教育という分野に光をあてていただき、今 後の励みになると思います。「明日の大 学」を標榜する ICU 大学院での体験は、 挑戦する意志と自信ときっかけをつくるの に決定的な影響を及ぼしました。50余年 にわたり国内外の英語教育の世界で活躍す るに至った原点がここにあります。ICU の同窓生は、少数精鋭、資質が高い。国際 社会の第一線で活躍する人、自信を持って 前向きに挑戦する人が非常に多いです。 ICU の伝統的教養教育は成功しています。 皆さまのご健闘を心から祈ります。

1955 年東京教育大学文学部英文科卒。東京都立石神井、井草、 日比谷高等学校(英語)英語教諭を 12 年勤める。1967 年 -96 年 慶應義塾大学経済学部専任講師~教授、1996 年名誉教授。1980 年米国ジョージタウン大学 Ph.D.(言語学)。1996-2008 年明海大 学外国語学部客員教授、名誉教授。2010 年から(財)英語教育 協議会理事長等。英語教師歴 54 年。2011 年春瑞宝中綬章受章。



6期生 卒業50周年記念式典

桜祭りでは毎年、卒業から50年目を迎えた同窓生の方を表彰する式典を行っています。今回対象となったのは、1962年にICUを巣立っていかれた6期のみなさん。桜祭りに足を運んでくださった6期の方には、同窓会より記念品が進呈されました。みなさんの生き生きした表情は、ICUで過ごしたかけがえのない時間を物語ってい

るようです。

これを読んでいる 7 期の方、来年はみなさんの番です。ぜひ、2013 年の春に開催される桜祭りにご参加ください。同期の方と旧交を温めるチャンスです。

A_Interview

日比谷潤子新学長インタビュー

文·写真 野仲 裕子(本誌)

――これまでの経歴を教えてください

ICU に来たのは 2002 年 4 月です。それまでは慶應義塾大学で日本語教育に携わっていました。ICU で言う JLP (The Japan ese Language Programs) のようなコースですね。慶應大では言語学の分野が文学部に含まれていて、専門に学ぶ学部・学科というものがありませんでした。慶應大で教鞭をとるようになって 10 年以上経ち、そろそろ言語学を専門にできるところで教えたいなあと思っていたときに、ICU が私の分野で公募していることに気付きました。ICU では原則として、教員はすべて国際公募で採用します。私もある米国の学会が発行しているジャーナルで見つけました。

赴任した当時、ICU は日本の言語学を 長年牽引してきた大学ですし、国内外で活 躍される優秀な ICU 出身の先生方もたく さん存じ上げていたので、『言語学の王 国』を継承・発展させるんだっていう気持 ちでいっぱいでした。その時はまだ大学行 政に関わるということもなく、自分が学長 になるなんて思ってもいませんでしたね。

2004 年に JLP の主任になって、2005 年には語学科長になりました。学科長とい うのは学科のカリキュラムを検討・調整したり、新任教員の採用人事を進めたりと大学と学科のパイプ役のような仕事です。同年の夏頃、鈴木前学長が教学改革の準備をしているからと、私に声をかけて下さいました。未だにご本人からはなぜ私だったのかというのは聞いていないので推測ですが、比較的最近他大学から来た人の意見というものを求めていたのではないかなと思います。それから2006年には教学改革本部長になって、2008年からは学務副学長、2012年4月から現職です。

----ICU に来て、10 年で学長に就任というのは早かったですね

それはもう、巡り合わせですから!教学 改革がなければ、学長にはなっていなかっ たと思います。ただ、改革本部長・副学長 として進めてきたことをさらに発展させた いという気持ちは強く、それには専門の言 語学に集中するのではなく、何らかの形で さらに大学行政に関わるのがよいのではと は思っていました。

──ICU 初の女性学長ということですが

ICU にしてはちょっと遅かったんじゃないですか(笑)。今までにも何度かタイ

ミングはあったと思いますよ。

先日、「天城学長会議」というのに参加しました。日本の国公私立大学長たちが集まって、大学のあり方を自由に話し合う会議です。参加者は40名だったのですが、その中で女性学長は、お茶の水女子大、東京女子大、日本女子大とICUの4名だけでした。これが日本の縮図だと考えて良いと思います。つまり1割ですね。女子大学というのは比較的女性の学長が多いですが、共学だとまだまだですね。

1990 年代に、私も留学していたペンシルバニア大学に、アイビーリーグ初の女性学長が誕生しました。そのときは NY タイムズなどに取り上げられて話題になったのを覚えています。今ではアイビーリーグ 8大学のうち、5大学が女性学長です。

"not only 学長 but also" (学長に限ったことではない)で、日本では大学以外の世界でも、「長」とつくポジションへの進出はまだまだです。その中にあって、ICUは教員のなかでの女性の割合は3分の1ですし、Non Japanese(外国籍)の先生も同じくらいです。性別や出身地域の多様性はきわめて重要で、その点、本学の評価は高いと思います。



2008年に教学改革が始まって、今年の3月に1期生が卒業しました。文部科学省への届出を行った教学改革が完成年度を迎えた今だからこそ、本当の改革はこれからだと思っています。

近年、リベラルアーツ教育を掲げる大学が日本でも増えてきていて、それらの中には、100%英語で授業をやっているということを特にアピールしているところもあります。でも私は100%英語で授業を受けたいのであれば、英語圏の大学に留学すればよいと考えています。ICUはバイリンガル教育ですから、英語50%、日本語50%でいいのではないでしょうか。英語開講科目を増やすことは重要ですが、日本語を通した学術活動も必要だと思っています。

これは社会言語学者としての私の意見ですが、現代社会は「移動」の激しい時代です。留学などで海外に出ることもありますが、難民や圧政に苦しむ人等がやむを得ない理由で、国を出るということもありますよね。日本にも外国籍の方が増えてきています。町を歩いていても日本語以外の言語が聞こえてくる事も多くなりました。みんなが同じ言語を使う環境に身を置くということは、これからもっと少なくなるでしょう。そのような環境の中で、複数の言語を使ってコミュニケーションを取る「交渉」

能力が求められてきています。

もちろん英語以外にも ICU には『世界 の言語』というプログラムがあって、現在 フランス語・ドイツ語・スペイン語・ロシ ア語・中国語・韓国語が履修できます。卒 業時に英語プラスこれらの言語が一つ身に 付いているというのが理想ですが、言語そ のものを習得すること以外にも、いわゆる 言語形成期をすぎてから、新たに外国語を 学ぶ姿勢や手法を身につけて欲しいという こともあります。その言語がパーフェクト にできなくてもいい。ただその文化的背景 を理解する事で、物事の多様性への寛容さ なども身に付きます。現在 EU 諸国では 「母語プラス2言語」を提唱しています。 これで初めて、多面的な物事の見方という のが出来るようになると考えています。 ICU でもできれば学生たちに「母語プラ





ス2言語」に取り組んで欲しい。協定を 締結した東京外国語大学との連携も検討し ています。

また、最近ではアジアにもリベラルアーツ大学が出来てきています。韓国の延世大学もリベラルアーツのカレッジがあります。将来はこのようなアジアのリベラルアーツ大学と連携していけたらということも考えています。

――最近東大が発表した秋入学について

ICU はご存知の通り開学して2年目の1955年から、帰国生や留学生受け入れのために秋入学を実施しています。東大が発表した「5年後に完全秋入学を実施する」というのは、現在の日本の高校の仕組みが変わらないと難しいと思っています。3月に高校を卒業してから9月までの間にギ

ャップ・タームを設けても、その間学生たちにきちんとした活動を提供できるか分からない。高校生自身も戸惑いますよね。 ICUでは、日本以外の教育制度のもとで高校最終学年を含み継続して2年以上教育を受けた学生は秋に、それ以外の学生は春に入学するという現在の入学制度を当面変えるつもりはありません。

――これからの ICU の役割について

東大が秋入学を発表し、アドヴァイザー制度や GPA、コースナンバリング制度も、日本の大学で広がってきています。幸いこのようなことは ICU が献学以来取り組んできたことで、ICU がこれまで蓄積してきた経験を抱え込むのではなく、他の大学にも伝えて行きたいと思っています。光栄な事に、他大学から見学に来ていただくことも多くなっていますよ。

今日は本当はもっとラフな格好だったんですよ!この大学ってラフな格好をしている人が多いでしょう。でも家を出るとき、あ!写真撮影があるかもって思って着替えてきました(笑)。学長同士の集まりなどに参加する事も多いのですが、そこに行くと見事にびっしり(スーツで)ネズミ色なんですよ。だから多少華やかな格好は心がけているかもしれませんね。

日比谷潤子

1957 年生まれ。上智大学外国語学部フランス語学科卒業。同大学院外国語学研究科修了(文学修士)。ペンシルベニア大学言語学博士(Ph.D in Linguistics)。慶應義塾大学国際センター助教授、ダートマス大学客員準教授を経て、2002 年国際基督教大学教養学部語学科に準教授として着任。2004 年同教授。2005 年語学科長。2008 年同学務副学長。2012 年4 月より現職。趣味はピアノと運動。忙しい合間を縫って、ランニングやビラティス、スタジオレッスンに汗を流す日々。当面の目標は、旧約聖書にあるように120 歳まで生きること。「まだまだ人生の半分も過ぎていない!」というのはご本人の談。

取材を終えて

約束の時間になると、学長室からひょっこり顔を出して「いらっしゃい」と笑顔で迎えてくれた日比谷学長。アメリカ留学時に太ってしまって、持っていった洋服が全部入らなくなった話。健康オタクでジムを掛け持ちしている話。今回掲載した真面目な話以外にも、楽しい話を沢山していただきました。「初の女性学長」という今まで何度も聞かれているであろう質問にも、快く丁寧に答えて下さり、同じ女性として、ハキハキしていて元気いっぱいな日比谷学長がとても素敵だなと思いました。日比谷学長、ありがとうございました。

生まれ変わった 評議員会、 好評裡に開催!

評議員会に行っても役員の話を聞いて、発言もせずに帰ってくるだけ? これじゃ評議員になっても意味がない? いえいえ、同窓会も変わってるんです! 文=樺島榮-郎(本誌) 写真=樺島榮-郎、斉藤ようこ(ともに本誌)



真剣な議論が交わされる、「大学」をテーマにしたテーブル。右から3番目は下館和巳評議員(22、院83、東北支部長)、その右隣は山内康一評議員(40)

評議員会がまったく新しい形式で開催された

同窓会評議員は定款によると、同窓会理事会に対して助言を行うとされ、現在は各期の代表や各支部長などを中心に96人が評議員として名を連ねている。評議員会は、理事会がそれまでの活動を評議員に報告し、助言を求める場として、9月と2月の年2回開催されてきた。しかし、これまでは同窓会会長の全体報告や、財務、事業、組織、広報等の8部会長ほかによる活動報告が時間のほとんどを占め、評議員は、最後の15分程度の時間に質問や意見の発言ができるに過ぎなかった。また、各地方支部長をはじめ、わざわざ遠方から来訪する評議

員であっても、互いに会話する機会がほとんどなく、交流があまり行われていないという不満があった。

これらの問題を解決するため、石塚雅彦 大学部会担当副会長(7)を中心に評議員 会改革チームを作り、数回の理事会で討議 を重ねた結果、今回の評議員会から、テー マごとに小グループを作り、グループごと に議論を行った後、それぞれのグループご とに発表し、議論を整理集約するという形 式をとることとなった。

新しい形式の評議員会は、2012 年 9 月 21 日に青学会館で開催され、32 人の評議 員(委任状が 46 人) と 23 人の理事が参 加した。会場のテーブルは、大学の運営や 問題に関するテーマを扱う卓、同窓会の活動やあり方に関する議論を行う卓、在校生に関することを論じる卓に分かれて配置された。各評議員は、事前に配布されている資料を参考に、参加者は入場時に興味のあるテーマのテーブルに着席した。活動報告は特に必要と思われる事柄に絞って、会長と関係の理事が前半の15分間程度で行った。その後、各テーブルで、約1時間にわたって議論を行った。大学についての議論を希望する人が多く、評議員の問題意識を表した形となった。

議論の後、各テーブルのディスカッション・リーダーが、議論の概要を発表した。 大学に関しては、知名度の改善や、募金活 動の改善、大学とのコミュニケーション・チャンネルの拡大、学生に関しては、就職 支援関連データの大学との共有、同窓会に 関しては、支部活動のさらなる活発化の方 法や、フェイスブック等の IT の活用、などが発表された。

会場の都合もあり、厳密に2時間と区切られるため、分刻みのあわただしい進行で、途中から入場された評議員が戸惑う場面も見られたが、参加者にも好評のうちに終了した。今回提出された、さまざまな方策の進行状況は、2月以降の評議員会で報告されることとなる。今後の評議員会の在り方も大いに注目されるところだ。



グループによる議論に先だって、15分程度、永渕光恵同窓会会長(21)による活動報告が行われた

学生をテーマにしたテーブルの議論の概要を発表する斎藤奈々理事 (53)





A_People

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

Joakim, KAUTTO

カウト・ヨアキム(50 ID06

高齢者介護ビジネスの現場で、 日本とスウェーデンをつなぐ

文・写真 小林智世(本誌)



不思議な楽器を楽しげに掻き鳴らすこの男性、 一見ミュージシャンのようだが、実はスウェーデ ン・クオリティケア株式会社(SQC)代表取締 役のカウト・ヨアキムさん。手にしているのはギ ターを簡略化した「ブンネ」という楽器で、ス ウェーデン人の音楽療法士・ブンネ氏が認知症の 予防・高齢者の身体機能維持・子供の発育促進を 目的として開発したもの。カウトさんは、日本に おけるスウェーデンの認知症ケアの普及を掲げた SQC で、ブンネをはじめとする楽器演奏を通じ たケア「ブンネ法」の普及活動や、福祉関係者の ための北欧研修ツアーなどに携わっている。筆者 が過去に参加した同氏のセミナーでも、流暢な日 本語で演奏方法を指導し、演奏に不慣れな参加者 に「いいですね! その調子!」と声をかけてプ ログラムに引き込む姿がインパクト大であった。

もともと日本に興味があったカウトさんは、母国のスウェーデンで学生時代から合気道を習い、日本に関する本もよく読んでいたという。埼玉県の植木屋に住み込みで8ヶ月間滞在した経験もあるが、黙々と植木を刈る生活の中で「将来は人と関わる仕事がしたい」と感じ、その後ヴェクショー大学で社会心理学を専攻。しかし福祉を学ぶつもりは全くなかった。福祉の道に進む契機となったのは、手違いで参加することになった「Social Welfare Program」だった。

「最初はあまり興味がなかったのですが、高齢者や障がい者の施設で活動するうちに、こうした 空間は研究対象として面白いと感じるようになっ たんです」

そして 2005 年~ 2006 年の一年間、OYR として ICU に留学。履修したのは日本語のコース。

ICUでの授業は「学生時代で最も厳しかった。 しょっちゅう小テストがあって」と振り返る。し かしこの経験は間違いなく、カウトさんの日本の 介護現場での活動に生かされている。前回の滞在 に比べ、日本の様々な側面を自由に見られたのも 収穫だったという。

留学を終えてスウェーデンに戻ったカウトさんは、「グループホーム職員のケアに関する日瑞比較研究」というテーマで論文を執筆。その後、スウェーデンで1年間働いた後、日本にあるスウェーデン福祉研究所に転職を決める。自分の経験を生かして、日本の介護の向上に何かできるのでは、という思いがあった。そして4度目の来日。今度は社会人として日本での生活を始めた。同研究所は組織形態を変えてSQCとなり、カウトさんは2009年に同社の代表取締役となった。

「日本の介護現場を見ると、画一的な介護しかできないシステム、介護に興味がない経営陣、パート従業員に対する教育が不十分であることなど、様々な問題があります。でもスタッフの介護の仕方はスウェーデンに比べてきめ細かい。日本の人はやろうと思ったら完璧にやろうとする点がいいと思います!

最近のお仕事は? と質問すると、「営業、営業、営業ですね」との答えが。前日にやった作業はブンネの練習曲の楽譜づくり。今では介護現場に加え、保育園にも手を広げて精力的にブンネの PRをしているという。この楽器が身近なところで見られる日も、そう遠くないかもしれない。

The man playing a guitar-like instrument in the above picture is Joakim Kautto (ID & term: ICU Alumni Office will fill in the data here), a President of Swedish Quality Care Co., Ltd (SQC). The instrument, named

"bunne", was designed by a Swedish music therapist Dr. Sten Bunne for promotion of mental, physical and social functions and prevention of dementia. It plays an important role in Kautto's business to introduce Swedish nursing techniques, including "bunne method", to Japan. Kautto has explained, performed, and taught how to play bunne at several nursing homes, childcare facilities and events in Japan. (The author once joined his lecture, amazed by his excellent Japanese and skill in encouraging and attracting participants.)

Kautto has had interest in Japan – he learned Aikido in Sweden, and read books about Japanese society when he was a teenager. He even has experienced eight-month stay with a Japanese gardener's family in Saitama as a resident part-time worker. During the stay, working alone with plants all day, Kautto noticed his desire to pursue a profession involves in communication with people in the future. When the stay was over, he decided to study social psychology in Växsjö University (a predecessor of Linne University); not gerontology. What turned his attention to elders was "Social Welfare Program", a class he joined because of the contents of the program rather then the desire to work with elderly in the beginning.

"Although taking this program was kind of an coincidence, I found atmosphere of nursing homes interesting as a subject of research."

In 2005, he spend one year of his university days in

ICU as an One Year Regular (OYR) student majoring Japanese. He reminds the Japanese classes as

"The most tough ones in my life; a number of small exams were regularly held." This experience, however, seems to help his current occupation. He could also have more free time to look around various sides of Japan.

He went back to Växsjö University in 2006 and wrote graduation thesis featuring nursing care at group homes in Sweden and Japan. He started up his own company and worked at a treatment home for addicts for half a year before he switched his career; he joined Swedish Care Institute (the predecessor of SQC), then decided to live and work in Japan. In 2009, he was promoted to President.

"Nursing care in Japan faces various issues, such as the welfare system lacking flexibility to individual cases, managers without visions of desirable nursing, or insufficient education to part-time employees. However, I feel that services of Japanese care workers are really detailed. In my opinion, that is strength of Japanese nursing care; once Japanese people are determined, they will do their tasks

He recently deals with "Sales, sales, sales." The previous day, he has reviewed musical scores for practicing bunne. The day you find this instrument around you may be approaching.

Joakim, KAUTTO

スウェーデン生まれ。1997年に同国の高等学校(社会研究プログラム)を卒業。兵役、ベルリンの障害者学校研修、埼玉県での滞在プログラムなどを経験し、2000年にヴェクショー大学に入学。2005年、国際基督教大学に OYR として留学。現在、スウェーデン・クオリティケア株式会社代表取締役。

リレーPEOPLE

第4回 荒井直さん (22 ID78 G1983) 山梨英和大学教授









同窓生をリレー形式で紹介する4回目は、西洋 古典学を学んでいる荒井直さん。前回の古澤ゆう 子さんの講義を学生時代に受講し、今も同じ分野 に取り組む間柄として紹介いただいた。

ICU ではフランス思想・文学を学ぼうと思っ ていた荒井さん。この分野に取り組むためにはラ テン語・文学を管見しておきたい、それならギリ シャ語・文学も覘いておくべきとギリシャ語文法 のクラスをとって、そのまま続け今に至った。フ ランス文化への帰還は果たせずにいるが悔いては いない。「古代ギリシャの喜劇の固有性を知るた めにはシェイクスピアの喜劇や狂言と比べるのも ひとつのやり方です。穴を掘るのと同じで、より 深く掘り下げるには少しずつ口径を広げなくては ならない」という姿勢で、「専門化・細分化され た主題を徹底してやらず、アマチュアとしてやっ てきたのでいまだに生半可以下です。古澤先生は ドイツ文学にも造詣が深い。広く取り組んでしか もプロ級の人がいるので、言い訳にしかなりませ んがし。



櫟社(れきしゃ)の散木として

荘子『人間世篇』に、用途がないため切られず に大木として残ったクヌギの話があって、荒井さ んの理想とのこと。今の社会に貢献して消耗する のではなく、役立たずのようでも「永遠の相の下 に(sub specie aeternitatis)」見れば意義がある ような生き方もあるのではないか。大学のクラス では「没価値性(Wertfreiheit)」を守り、学生自 身が価値判断できるよう考える材料の提供を心が けている他、「役に立つ・立たない」という視点 から離れ、知的なタフネスが身に付くようリアル に考えることを促している。2月と5月に陸前高 田市へ学生と向かった。突然やってきた者に出来 ることはあまりに少ない。役に立てないことで学 生はショックを受けるが、リアルな現実に触れる。 「がれき」というものはそこにはない。それはカ セットであったり割れたお皿であったり、生活の 跡。言葉は大切だが、世界を如実に見るには枷と もなる。「ICU」という実体はない、リアルに存 在するのは個々の ICU 生だ。ギリシャ文学とい

う言い方は必要だが、個々の作品、その一行一行 がリアルなもの。そういう見方が ICU で涵養さ れた。「本当に困っている人は、同じような経験 をした人にしかサポートできないのでは。被災地 に行くことはあまり役に立たない。しかし『忘れ られていない』と思って地元の人が元気を出す きっかけになるかもしれません。学生たちは、ど の大学が行かなくなっても私たちは通い続けよう と言っています」。

「在日古代ギリシャ人」として

「古代ギリシャ世界に沈潜することで、21世紀 の日本や世界を相対化できます。言葉の使い方の 微細な違いも、できるだけ用例に当たってだんだ ん自分を古代ギリシャ人のメンタリティにしてい く。そうしてみると、今当たり前とされているこ とに違和感を覚えることが多々あります。反対に、 古代ギリシャ人の作品で今でもそのまま分かる部 分もある。人間の本質が変わらない限り、当時の ことは今でも通用するはずです」。

ホメーロスから新約聖書までギリシャ語で書か

れたものの精華には、「人間として生きる」とはど ういうことかに深い洞察を示す結晶のような言葉 があって、困難な時代を生き延びるための糧にな るはずとのこと。

学部・大学院時代に西洋古典学や古代哲学の世 界的権威の謦咳に触れることができ、出来る人ほ ど全く偉ぶらないことに驚嘆した。原典購読では、 恩師がオリジナルな発見をする現場に、それが論 文になるプロセスに立ち会い、真理に対する謙虚 さを学ぶことができた。ギリシャ文学に取り組ん でいると「人間とは何かをしみじみと考えさせら れます。私が ICU で学んだことを学生に伝える ことが学恩に報いることだと思っています。でき ればいつか、アリストファネスについて、ICU で学んだ日本人の私だから分るかもしれないこと を書きたいと思っています」。

次回は石川裕美(37 ID93) さんの予定です。

田中文雄先生への 感謝を込めて

文:原礼子(20 ID76) 国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館

田中文雄名誉教授が2011年7月25日に 急逝されました (享年78歳)。先生は1964 年に人文科学科(当時)に着任されて以来、 30年以上にわたり熱心に、また愛情たっぷ りに美術史を教えて下さりました。一方、大 学 25 周年記念事業の一環として建設された 大学博物館については、当時学長であった中 川秀恭先生や J.E. キダー先生と共に計画段 階から携わり、京都の湯浅家から数回にわ たってコレクションを運ぶなど、中心となっ

て尽力されました。おかげで、湯浅八郎記念 館は1982年に開館することができたのです。 その後も運営委員として、また1993年と 1996年には館長として、常に博物館を支え て下さりました。退職後も、当館の行事には 毎回参加して下さり、今年6月の公開講座 にも元気な姿で、私たちを励まして下さった ばかりだったのです。常に周囲に気を配り、 暖かくご指導下さった先生に、心より感謝い たします。







A_Campus

ICUキャンパス物語(第13回)

1978-1981

建物にドラマあり。それぞれの人の思いや熱意、偶然が建物を作り上げていく 今回は、知られざる本部棟、湯浅記念館、総合学習センターを取り上げる

文=樺島榮一郎(1993年社会科学科卒、1997年行政学研究科卒)

物事には、時がある。それまでの制約が突然、取り除かれ、導かれたようにさまざまな状況が重なり、一気に動く。一度動けば、いつの間にか慣性がつき、次々と連続した動きが起こることもある。

大学の建物の建設は、多くの関係者の意向が絡 み合い、少なからぬ資金が必要となる大規模な事 業であり、やはり、ある種のタイミングを要する ものなのであろう、これまでのキャンパスの建物 の建設時期を見ると、特定の期間に集中している ことが分かる。大学に必要な施設を整えるために、 本館(改装)、教員住宅、寮、学生食堂、D館、 教会堂、理学館などを連続して建設した開学直後 の 1950 ~ 1966 年、図書館、体育館、プール、 パワーステーションを建設した 1972 年、教育研 究棟 (ERB)、本部棟、総合学習センター (ILC)、 湯浅八郎記念館、集合住宅を建設した1978~ 1981年、オスマー図書館、体育館セントラル・ ロッカー棟(建替え)、D館西棟、アラムナイ・ ハウス、グローバル・ハウス(寮)の建設を行っ た 2000 ~ 2001 年、欅寮、銀杏寮、樫寮、ダイ アログハウスを建設した 2010 ~ 2011 年である。

こうしてみると、その後、20年にわたり大規模な建物の建設が行われていないことから見ても、今回取り上げる1978~1981年の建設をもって、ICUキャンパスは一応の完成を見たと言うことができよう。この時期に建物建設が集中した要因としては、中川秀恭(1908-2009)第7代学長の建物建設に対する積極性、開学25周年記念としての位置づけなどによるが、その端緒にして最大の要因は、ゴルフコースとして利用されていた野川以西の土地を1974年以降に、東京都に売却し資金を得たことであったと言える[高橋:2012][後藤・橋本:2012][原:2012]。

この時期は、大学としての基本的な校舎は充足しており、新たな建物は、大学の機能を拡張するものとなった。また、開学以来初めて(またこれ以降も)主任建築家を置かずに、建物の建設を行うこととなり、それぞれの建物で建築家を決定する新しい局面に対応する必要がでてきた。この時期は、学外識者との関係[1]が、建築家の決定に重要な役割を果たすこととなった。

本部棟は、それまで本館にあった事務スペースや会議スペースを集約・拡張するために作られた建物で、少なくとも、稲冨が主任建築家であった1970年代前半には構想があった(稲冨により模型が作られている)。教育研究棟(ERB)とほぼ同時期に建設計画がスタートし[2]、設計を担当したのは、レーモンド設計事務所であった。レーモンドは、1973年、85歳で引退してアメリカに帰国しており[三沢:1998:214, 235]、事務所はすでに組織として運営されるようになっていた。今回の調査では、受注の経緯は判然としなかったが、1972年の図書館第二期建設以来も、継続的に担当者がICUに赴いていたことが要因としてあったようである。設計においては、建設を担当する事務職員の意向が取り入れられている[石川:1982:125-126]。

湯浅八郎記念館は、湯浅八郎が京都の自宅に収集・保管していた民芸品コレクションを、ICUと京都民芸資料館に分割して寄贈することになったことを契機に[3]、創立25周年記念事業としての位置づけを得て、その展示・保存のために建設計画が始まったものである。設計は、記念館建

設委員の一員であった千沢楨治(1912-1984)から前川國男(1905-1986)の推薦があり、鶴の一声のような形で前川建築事務所が受注するに至った[後藤・橋本:2012][4]。千沢は、東京帝国大学文学部美術史学科を卒業した後、東京国立博物館に勤務、学芸部長などを務めた後、1977年より上智大学教授、平行して1976年から山梨県立美術館開設準備顧問、そして78年より初代の山梨県立美術館長に就任している。山梨県立美術館は、前川の設計によるもので、この時の経験が推薦の根拠となっていた。

前川は、1928年に東京帝国大学を卒業後、渡 仏しモダニズム建築の第一人者、ル・コルビジェ (1887 - 1965) の事務所に2年間勤務した後に 帰国し、レーモンド事務所に5年間勤務した。 前川は、レーモンド事務所所員時代から独立した 仕事を行い(正式に自らの事務所を開設したのは 退社後)、戦前および1950年代は、モダニズム を色濃く反映した建築を設計したが、1960年代 から、徐々に日本の風土にあった独自の作風を確 立、特にタイルを外壁面に置きコンクリートを打 設する、打ち込みタイルは、晩年の前川のトレー ドマークのひとつとなった。1970年代には、埼 玉県立博物館(現・埼玉県立歴史と民俗の博物 館) (1971年)、東京都美術館 (1975年)、熊本 県立美術館(1977年)など、数多くの美術館や 博物館を手掛け、美術館設計の第一人者としても 著名であった[前川國男建築展実行委員会:2006]。

総合学習センターは、創立 25 周年記念事業の一環として建設された。各学科の共同利用施設として、語学教育用教室(ランゲージ・ラボラトリー)、コンピュータ端末室、シミュレーション室、教材制作スタジオ、心理学実験室、集中語学教員研究室、ラウンジなど、通常の教室や教員研究室以外のさまざまな機能を集積する建物となっている。設計は、献堂式資料や書類上では K 構造研究所だが [国際基督教大学:1981]、基本設計は K 構造研究所というのが実際のところであろう。

谷口汎邦(1931-)は、東京工業大学で建築を 学び、修士課程の途中で同大助手に就任した。そ の後、20年近くに渡り、大学院キャンパスとし て横浜市緑区長津田町に開設予定だった、東京工 業大学すずかけ台キャンパス計画の実務責任者を 務め、配置計画のみならず校舎の基本設計を行っ た。また、1970年代には、習志野市視聴覚セン ター・教育研究所(1975)、岐阜県池田町立池田 小学校・付属幼稚園・公民館(1980)という二 つの教育施設の設計をK構造研究所とともに行 い、文部省などから高い評価を得ていた。特に習 志野市の施設は、市内小中学校の教育を補う視聴 覚室や教育工学研究室、交流のためのコモンスペ ースなど、コンセプトや機能が ICU の総合学習 センターと重なる部分が多く、意匠やプランに強 い共通性が見られる [K 構造研究所:1976?]。 K 構 造研究所は、谷口の実父で東京工業大学教授であ った谷口忠の教え子、松本明男が設立した事務所 で、大学教員の谷口が担うことができない実施設 計を行っていた [谷口:2012a]。

谷口は、教育工学に関する本[5]を共同執筆したことから、総合学習センター建設委員であった中野照海教授の紹介で、外部専門委員となった。 基本的な建物配置やプランは谷口の研究室で作成され、委員会で了承された。委員会終了後に財務 担当副学長から設計事務所を紹介してほしいと話 しかけられ、その場でK構造研究所を紹介(詳 しい説明はできなかったという)、副学長も了承 したと言う[谷口:2012c]。しかし、その後、 ICU側の意向で谷口が基本設計を行った事実は 伏せられ、公式にはK構造研究所の単独設計と された[谷口:2012b]。これは、稲冨の時(第12 回参照)と同じく、顧問的な立場の者 [6] が自ら 設計を行い、関係の事業者に受注させるのは、 ICUの損害となる可能性があるという考えが事 務方にあり [石川:1982:103-104]、それと整合性 を持たせるためだったように思われる。理由を知 らされなかった谷口は、設計料が割高になるのを 避けたかったのでは、という理解である[谷口 :2012b]。とはいえ、この時点ですでに設計は完 了しており、実質的には谷口が基本設計を行った 建物が建設されることになった。温厚な谷口は、 その後、理学館改築委員にも任命され理学館改築 に助言を与えている。

以下、本部棟、湯浅記念館、総合学習センターを取り上げる。(特に表記のない写真は筆者撮影) (この時期には、教職員共同住宅も建設されているが、撮影できなかったため、今回は取り上げない。)

本部棟(1978)

鉄筋コンクリート造り、2階建、規模は3370㎡、施工は大成建設である。各事務部門のスペースや幹部教職員用個室、教授会用などの会議室、計算機センター等、大学行政の機能を集積するものとして建設された。場所は礼拝堂前のロータリーの北東に位置する。この場所には、ヴォーリズの設計による学長宅があったが、本部棟建設に伴い、取り壊された。東西に長く、北側に突き出した部分を設けたT字型で、東西のラインは、本館ファサードと平行に配置されている(これは、図書館、ERB、理学館、総合学習センターも同じ)



図1 本部棟ファサード

あまり使われることがないが、南側中央に正面入り口が 設けられる。建物の耐久性を考慮し、窓の外側に奥行の ある柱と梁を設け、窓や壁に雨があたりにくい構造とし、 雨のあたる柱と梁にはタイルを張っている。



図2 西側入り口

他の建物との動線の関係から、もっとも使われている入り口が、西側入り口である。左側のマクロボードを張った白い部分は、後年、増築されたエレベータ部分。右側壁面には、打ち放しコンクリートの表面荒しを地にして、荒しを行わない部分を使って世界地図が書かれている。これは、設計事務所および施工者による寄贈だという[石



図3 1階廊下

図3 1階邮ト 廊下をはさんで、南側に職員が業務を行う事務スペース、 北側には、給湯室や印刷室等の補助的なスペースを配置 する中廊下形式。廊下は断続的に吹き抜けとされ、その 上部にはヴォールト屋根(かまぼこ型)の天窓を配する。 2階廊下部分にも大きな家を設け、この天窓からの光を 取り込んでいる。コンクリート打ち放しの部分には、四 角い太い目地を付け、薄い茶色で塗装している。このコ ンクリート部分の意匠は、レーモンド事務所自社ビルと 似たものである



図4 1階事務スペース

西側の事務スペースは、学生サービス部など、学生対応 が必要な部署が、広く、カウンターのあるスペースに配 される。他の日本の大学でもよく見られる空間構成



図5 中央階段2階部分

上部に設けられたヴォールト屋根の天窓からの光が美しい。正面玄関そばに位置するこの中央階段を境に、東側 (写真右側の自動ドアの奥) は幹部教職員の個室、西側 は経理グループや管財グループの事務スペースとなる



図6 学長室

国の チルミ 学長室は、2階一番奥(東側)の南側に配置される。南側の全面にとられた、天井の高さまである腰窓から見ると、完全 に窓の外側に柱があること、そのため柱のスパンと部屋割が一致していないことが分かる。壁はやや濃いめの塗装がされた木製で、落ち着いた雰囲気。写真には写っていないが、カメラの背後には、アメリカでのICU設立運動のきっかけを作ったジョン・マックリーン牧師の肖像画が掲げられている

[1] 中川は、北海道大学に長年勤務し、退官後、北海道教育大学 学長を務め、1971 年より ICU の教授、1975 年より ICU の学 長となっている。このような経歴から、学外識者の登用に抵抗が 少なかったものと思われる

[2] この点で、本部棟の成り立ちは、湯浅八郎記念館と総合学習 センターと区別されるべきとも考えられるが、建設の要因のうち、 中川学長の存在および野川公園用地の売却益という2つは、共 通していると考えられること、また、稲冨が主任建築家だった時 代と明確に区別するため、今回の区分に含めた。

[3] より正確に記せば、1974年に創立25周年記念事業の一環 として ICU 博物館が計画されていた。その後、湯浅が 1978 年 に「民芸の心」という講義を開講した際に、京都より800点の 民芸品を移送、これを契機に湯浅記念ミュージアム(仮称)の設 立が理事会で承認され、建設計画がスタートした[国際基督教大 学博物館:1984:21

[4] 一方で、建設の沿革を記した、 [国際基督教大学博物館 湯浅 八郎記念館 年報No.1 1982-83』[国際基督教大学博物館 :1984] の委員の欄に千沢の名前はない。この点はさらに調査が

必要である

[5] 中野照海編著(1979)『教育工学』学習研究社、11章「学 校施設・建築の改善 を谷口が担当

[6] 石川(1982:103-104) は谷口が建築顧問に就任したとする が、これは誤認であろう

[7] 完成すれば一筆で書けるようになることから、このような前 川のプランを「一筆書き」と呼ぶこともある [前川國男建築展実 行委員会:2006:254-2551

参考文献・インタビュ-

[後藤・橋本:2012] 『後藤伸一氏 (元前川建築事務所所員)・橋 本功氏(前川建築設計事務所代表取締役所長)に対するインタ ビュー』 日時:2012年7月3日火曜日11:10-15:00 場所: 前川建築設計事務所

[原:2012] 『原礼子氏(湯浅八郎記念館館長代理・学芸員) に 対するインタビュー』 日時:2012年7月17日火曜日10:20 - 10:50 場所:湯浅八郎記念館

[石川:1982] 石川芳郎「来し方ゆく末」1982 年 自費出版 [K 構造研究所:1976?] 株式会社 K 構造研究所『習志野市視聴 覚センター・習志野市教育研究所 岡山県国民年金保養センター "しもつい"』 K 構造研究所資料 (建築雑誌の抜き刷りと思われる **‡**の)

[国際基督教大学:1981] 『国際基督教大学 総合学習センター』 (献堂式用と思われるパンフレット)

[国際基督教大学博物館:1984] 国際基督教大学博物館 湯浅八 郎記念館『国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館 年報 No.1 1982-83』国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館

[前川國男建築展実行委員会:2006] 生誕100年・前川國男建 築展実行委員会監修、松隈洋・稲田威郎・袖花文・谷哲夫・松沢 寿重・市田穀編『建築家 前川國男の仕事』美術出版社

[三沢:1998] 三沢浩『アントニン・レーモンドの建築』鹿島出 版会

[高橋:2012] 『高橋恂氏(元管財部長)に対する電話インタ ビュー』 日時:2012年6月1日金曜日15:20-16:25 [谷口:2012a] 『谷口汎邦氏(東京工業大学名誉教授)に対す るインタビュー』 日時: 2012年7月10日火曜日15:00 -

18:10 場所:谷口汎邦氏自宅 [谷口:2012b] 『谷口汎邦氏(東京工業大学名誉教授)に対す る電話インタビュー』 日時:2012年8月5日火曜日15:00 -

[谷口:2012c] 『谷口汎邦氏(東京工業大学名誉教授)に対す るインタビュー、谷口氏作成の原稿』 日時:2012年8月29 日水曜日 16:00 - 18:00 場所: 谷口汎邦氏自宅

丁寧にインタビューに応じてくださり、資料をご提供いただい た、後藤伸一氏、原礼子氏、橋本功氏、堀啓二氏(株式会社 K 構造研究所取締役所長)、高橋恂氏、谷口汎邦氏に感謝致しま す。また、写真撮影に関して、ICUパブリックリレーション ズ・オフィスの佐藤健二氏、日比谷潤子学長にご協力を頂きま した。どうもありがとうございました。キャンパス物語のご感 想、当時の体験談、間違いの指摘等は BYA14202@nifty.com にてお待ちしています。

湯浅八郎記念館(1981)

鉄筋コンクリート造り、2階建て、規模は1371.2㎡と小 さい。正式な開館は82年6月で、81年8月に亡くなった湯 浅がその完成を見ることはなかった。坪単価予算が60万 円代と、それまで前川事務所で手掛けてきた美術館の半 額程度であったことと、美術品の保存・収納のために山 梨県立美術館で試みられた外断熱をさらに発展させる意 図から、鉄筋コンクリートの壁の外側に、隙間(空気 層)を設けて、既製品の住宅用レンガを積み上げるとい う手法がとられた。設計の過程では田中文雄教授や、エ ドワード・キダー(J. Edward Kidder)教授、美術考古 学研究室の助手2人と何度も熱心な打ち合わせが行われ、 通常なら専門業者に丸投げするような部分も、手作りの ように丁寧に検討したという[後藤・橋本:2012] [原:2012]



図7 南東からみたファサード

タイル張り(実際はレンガ積み)の外観、長方形を1/4 ほど重ね合わせその間に置いたエントランスなど、典型 的な前川設計の美術館と言える。雨どいの意匠、収まり も見事。前川は、移動の際の視界の変化などを狙い、長 方形もしくは正方形を組み合わせるプランを多用したが [7] 、湯浅記念館は、その最少単位、2つの長方形の組み 合わせたプランとなっている



外側のレンガ壁と構造の鉄筋コンクリート壁の間の空気 層に、空気を通すための吸気口が、外壁の下端に一定間 隔で設けられる。レンガの配置は、このような吸気口、 窓や雨どいの周囲、コーナーなど、変則的な部分も含め て、全て図面を制作し、それに基づき施工されている。 なるべく表面にテクスチャを与えるように、目地をでき る限り奥に置く工夫をしているが、テクスチャに乏しい ということで前川はこの工法に満足していなかったとい う[後藤・橋本:2012]



図9 エントランス

正面の緑の絵のように見える部分は、両面をガラスにし た展示ケース。展示されている花器の周囲に、ロビー北 面の窓を通して緑が映える。正面に壁を置き、入って90 度曲がる玄関も前川建築の特徴の一つで、茶色と黒のタ イルでストライプを作る床も、埼玉県立美術館や熊本県 立美術館等、このころの前川作品によく見られるもの



図10 ロビー

展示スペースに対して相対的に広く、窓を大きくとった ロビーも前川の美術館の典型。展示室との間を区切る アーチ型の木枠のなかには、防火シャッターが仕込まれる



図11 1階東展示室

民衆の生活のなかから生まれた民芸品であるから、手に 取って触れるように展示したい、というのが湯浅の意向 であった。保存を考えれば、見学者に触ってもらうこと は難しいが、なるべくガラスケースを使わず、近くで見 ることができるように、さまざまな展示の工夫がされて いる[原:2012]



図12 東側階段

力強い手すりの造形が印象的。記念館の雰囲気にあった 特徴的なポスターは、館員の福野明子(湯浅八郎記念館 エキスパート・学芸員)が、開館以来自らでデザインし つづけてきた。壺の展示も、湯浅の意向を生かしたオー プンなもの



図13 2階展示室

2階は特別展を行うための展示室。手前に見える壁はす べて稼働式で、展示によって空間構成・順路を変更する ために使用する。厚さが60cm、高さが240cmあり、展 示室の壁と同じクロスが張られているため、移動壁だと は感じにくい。建物全体も90cm、9mを基準に作られて いるが、各種展示台も90cmを基準に作られており、大変 使いやすいという。こういったところにも、前川の美術 館設計のノウハウがうかがえる。奥のガラスケースには、 使用しないでオープンな展示を行う場合、壁と同じクロ スを張った板をはめ込み、掲示壁として使える、ICU独 自の工夫がなされている[原:2012]



図14 1階西側展示室

学内の遺跡に関する展示を行うスペース。大きな吹き抜 けを生かした地層の展示が楽しい。正面のライトは、設 計段階ではなかったが、暗いということで急遽付け加え られたもの



図15 資料室

1階西側展示室の奥に位置する。英語でいうとOpen Storageで、研究者が収蔵庫から研究対象の収蔵品を出 してきてもらい研究を行うスペースという位置づけで、 これもICU独特のものである[原:2012]。現在はそれに加 えて、小物の展示も行っている



鉄筋コンクリート造り、3棟の長方形の建物を雁行型に 配置、連結しており、東側の建物が2階建て、中央の建 物が4階建て、西側の建物が3階建てとなる。場所は、本 館と理学館との関係がら決定されている。規模は合計で 4363.37㎡、施工は大成建設。竣工当初は、東棟には語 学教育用教室、2事務室とコンピュータ端末室、中央棟 には心理実験室や心理実験用のシミュレーション室、西 棟には英語教員研究室と日本語教員研究室を配置してい



図16 竣工当時の外観

3棟の組み合わせが良くわかる。本館との渡り廊下も、こ の時、一緒に作られている。建物の一番外側に柱と梁を 置くアウトフレーム構造が特徴的。白い外観や、横長の 窓、ピロティのような1階部分の広い外廊下は、コルビ ジェを思い出させるものである(提供:K構造研究所)



図17 1階教室

1階の教室の周囲は外廊下が取り囲み、教室ごとに独立 していることから、建物の中に建物があるように感じさ せる。教室の外側は、黒で統一されている。コスト削減 のために窓はすべて既製品だという。



図18 竣工当時の語学教育用教室(101教室) 東棟1Fには、ソニー製の最新機器を備えた語学教育用教 室が設置されていた [国際基督教大学:1981]



図19 現在の語学教育用教室(103教室) 現在、機器はすべてPCに置き換わるとともに、竣工当 時は無塗装だった有孔ボードが白く塗装されている



図20 現在の101教室

プレゼンテーションやワークショップ用の教室にリ ニューアルされている



1,2年時の集中語学教育で使われる教室。無塗装有孔 ボードを使った壁や、同じく有孔ボードの内戸を持つ掃 出し窓などに特徴がある。1980年代以降の入学者のほと んどは、入学当初、ここで語学の集中教育を受ける



図22 3階心理実験室前廊下

4階は緑、3階は青、2階と1階にはオレンジ、エレベータ ホールは黒と黄色がアクセントのために塗られている。 床、天井、壁ともに白で、窓が見えにくいせいか、2階 以上は、強烈に「理系の空間」という印象を受ける

今回特集するのは、文学メジャー。客観的なデータに頼らず、
小説や詩などの書かれたテキストを自由な発想で読み解くことが求められるこの分野は、
リベラルアーツの「リベラル」と結びつきが深そうです。
文学メジャーの目指すもの、そして学生たちの学びの現状を、
ツベタナ・クリステワ教授に伺いました。

インタビュー・写真 = 小林智世(本誌)



実利主義に傾く世界で 人間性を失わないために

ICU のリベラルアーツにおける文学メ ジャーの最大の役割は、学生たちが幅広い 学びから得た知識を活かす場面が訪れたと き、人間性、つまり心を失わないように導 くことだと思います。現代社会ではプラク ティカルな知識をもてはやす風潮が強まっ ていますが、「役に立つか立たないか」、 「お金になるかならないか」という評価基 準が絶対的なものとなってしまうのは非常 に危険なことです。しかし文学を学んでい れば、より多様な価値観や感性に触れるこ とができる。古今東西の文学の中で、人は なぜ生きるのか、生きる上で大切なものは 何なのかというテーマを扱わないものは一 つもありません。損得を超えて本当に大切 なものを見極める心を育てることで、ICU で培われた知識が真に有意義なことに使わ れるよう働きかけてゆくことが、ICUの 文学メジャーの大きな使命です。

また、テキストを批判的に読み、言葉と 美の世界を追求できることも、このメジャ ーの大きな特徴です。文学とは言葉の芸術 であり、洗練された言葉を読み解く中で養 われる表現力や美意識は、きっとその後の 人生で役に立つはずです。さらに、多様な 価値観に触れる中で立場や国境を越えた感 受性レベルの相互理解が育まれ、平和の実 現に役立つという側面もあるのではないで しょうか。

学生の想像力と創造力に 働きかける

ICUの文学メジャーでは、日本文学、 米英文学、フランス文学、ドイツ文学、ギ リシャ文学などの授業に加え、ロマン主義、 リアリズム、ジェンダーといった切り口か ら世界の文学を横断的に見る授業も開講されています。一部の難易度の高い授業は担 当教員の受講許可や初歩的なクラスの既習 が求められますが、基本的に履修の順番は 自由で、「ダブルメジャー」や「マイナ ー」として文学を学ぶ学生も積極的に受け 入れています。

私は「文学の世界」や「古代日本文学」といった授業で日本古典文学を教えていますが、そこではレクチャーだけでなくディスカッションやプレゼン、テストでのクリエイティブライティングなどを取り入れ、学生の想像力と創造力に働きかけることを意識しています。日本古典文学は、欧米の文学に比べて読者の解釈に委ねられるところが多く、読者の自由度が高い文学という言葉は、「詠み人」とも解釈できる。読者は作者の思いを辿り、曖昧な点を自らの想像力で補い、作品に参加することが求められる。学生たちにはこうした想

像と創造の面白さを味わってほしいですし、 その過程で自ら何かを創り出すことも学ん でほしいと思っています。

グローバル妄信でもなく、 受け身でもなく

ICU はグローバル志向の学生が多いというのが世間一般のイメージですが、授業をしていて実感するのは、決して日本への興味が薄いわけではないということ。実は文学メジャー所属の学生のうち、半分が日本文学専攻なんです。英語力を鍛えて世界に目を向けつつ、日本語や日本文化を再考する意欲も併せ持っているように思います。

また、単にレクチャーを聞くだけではなく、自ら創作する課題にも積極的に取り組んでくれる点が嬉しいです。先日行ったGE (General Education = 一般教養科目)の授業で、選択式の課題の一つをクリエイティブライティングにしました。古今和歌集の梅の歌を18首集めた章を題材に、自分でストーリーを創作するというものです。クリエイティブライティングを選んだ学生に、未提出者は一人もいませんでした。素晴らしい。採点も非常に楽しかったです。文章を書くのが苦手な学生もいるので全員必須にはしませんが、今後も創作の過程を味わえる課題を出す予定です。

文学メジャーの学生には、学びの中で培 われた想像力・創造力・表現力・美意識を 駆使して、受け身に終わらず自分が主役に なって何かを創り出す人間になってほしい。 作家になるわけではなくても、新しい何か を提案する存在として活躍してほしいです。

インタビューを終えて

社会や自然といった具体的に働きかけられる対象ではなく、人間の内面を研究対象とする文学。その成果が経済発展や技術革新といった目に見える豊かさに直結するものではないが故に、役に立たない学問と見做されることもあります。しかし経済発展や技術革新が人間一人一人に「豊かになったんだ」という喜びや充実感をもたらして、本がの豊かさも実現されないのでしょう。感覚的・情緒的な次元で世界や人間を捉えようとする文学メジャーは、ICUのリベラルアーツの良心と言えるかもしれません。

ツベタナ・クリステワ KRISTEVA, Tzvetana

ソフィア(ブルガリア)生まれ。1978年、モスクワ大学アジア・アフリカ研究所日本文学科卒業。1980-81年、東京大学文学部国語・国文学科研究生。1984年にソフィア大学博士(文学)、2000年に東京大学博士(学術)を取得。現在、ICU教養学部アーツ・サイエンス学科教授として文学メジャー・日本研究メジャーを担当する傍ら、ICU大学院アーツ・サイエンス研究科 比較文化専攻主任も務める。また1986年には「枕草子」ブルガリア語訳の功績によってブルガリア文化省より文化賞(翻訳部門)を贈られるなど、日本文学の翻訳者としても活躍している。



同窓会グッズ

1) 本革製 名刺入れ

二つ折りタイプの名刺入れです。ICU 同窓会の盾のマークがプレス刻印されている本格仕様。笹マチ型で、25 枚入ります。黒と茶の2色をご用意しています。本格仕様でこの価格はかなりリーズナブルな一品です。ビジネスづかいに、同窓会仲間との名刺交換の際に、またはスペアとして予備名刺のストック用にいかがでしょうか?

価格 各 1,800 円 (税込)

2) ピカタン

手動式携帯型懐中電灯です。握って動かすことで充電され、電球が光るようになっています。バッテリー不要の防災グッズです。軽量なので、かばんの中でもじゃまになりません。いざというときのために、ご家族ひとつずつ持つのもおすすめです。暗い玄関先で鍵が見つからない!なんていうときにも役立ちます。色はオレンジ、紫、緑、グレーの4色あります。

価格 各 980 円 (税込)

3)便箋

ICU 教会の絵と大学名の入った、洗練されたデザインの便箋。50 枚綴です。

価格 各300円(税込)

4)レターオープナー

同窓会ロゴと大学名の入った、レターオープナー。 便利なルーペ付きで、色は青と白の2色をご用意 いたしました。

価格 各300円(税込)

いずれも、学内の三省堂書店または同窓会事務局に て販売しております。



ICU ソングのオルゴール完成しました。

音で表現できる ICU グッズはできないだろうか? という発想のもとに、かわいい ICU ソングのオル ゴールが完成しました。

手巻き式 (15 秒) のオーソドックスなものと、 4 種類の音色が選べる電子式 (30 秒) のものがあ ります。

手元で鳴らせば、懐かしい ICU を思い出すことができます。記念品、贈答品としてもご利用ください

お問い合わせは同窓会事務局へ

aaoffice@icualumni.com

ミニフォトフレームモデルは学内三省堂書店でも販売しております。

1)ピアノ型(手巻き式)

価格 7,000 円 (税込)

2) ミニフォトフレーム型 (手巻き式)

価格 3,000 円 (税込)

3) 高級フォトフレーム型(電池式)

価格 8,000 円 (税込)



News from the University

大学のページ





献学60周年記念礼拝

2012 年 6 月 12 日、大学礼拝堂にて、永田牧師 司式のもとに献学 60 周年記念礼拝が執り行われ た。

大学オルガニスト菅哲也氏が奏でる荘厳なオルガンの前奏の中、ICU生、教職員、またこの記念礼拝の日にあわせて行われた、「ご入学 50 周年記念祝賀会」に参加した10 期生約40 人をはじめとする同窓生、計約300 人が参列した。礼拝は永田牧師による祈りで始まり、参列者一同による賛美歌「いつくしみ深き」の斉唱、聖書からは「ペテロの第一の手紙第4章10節-11節」が朗読された。

続いて行われた礼拝説教では、北城恪太郎理事 長(写真右)が「賜物を生かす道」と題し、参列 者を前にメッセージを述べた。

賜物を生かす道

国際基督教大学の献学 60 周年の記念礼拝で皆 さんにお話できることを大変嬉しく思っていま

まず始めに、いつも私を励ましてくださる御言葉を、お読みします。 ペテロの第一の手紙 4章 10 節から 11 節です。

「あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互いのために役立てるべきである。語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜る力による者にふさわしく奉仕すべきである。 それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神が崇められるためである。 栄光と力とが世々限りなく、彼にあるように、アーメン」

このペテロの第一の手紙は、イエス様が昇天された後に、初代教会の指導者になったシモン・ペテロから、「ボント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジャおよびビテニヤ」の各地に離散して寄留している人に向けて書かれています。歴史によれば、紀元70年ごろエルサレムはローマに占領されていて、イエス・キリストを信じるユダヤ人は全世界に散らされていったようです。ペテロの第一の手紙の1章の1節には、「離散して寄留している人たち」と書かれていますから、これらの人達は、信仰のゆえ、自分の家を追われて逃げてきた人達なのだと思います。

さらに、2章11節から12節において、ペテロは、「愛する者たちよ。あなたがたに勧める。 あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。異邦人の中にあって、立派な行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの立派なわざを見て、かえって、訪れの日に神を崇めるようになろう」と書いています。

各地に散らされた人々は、知らない土地で、神 に従う生活を始めたようですが、しかし、何故、 これらの人達は、家を追われても信仰を持ち続けていることができたのでしょうか。 それは、イエス・キリストの弟子であった使徒たちでさえ、キリストが神の子であることに確信が持てなかったにもかかわらず、死から復活した主イエス・キリストに接した時に、弟子たちが確信を持って力強く、キリストの存在の証人として、語ったからではないかと思います。

それは、ヨハネによる福音書の 20 章 25 節以下に書かれている、十字架の上で死なれ、そして復活されたイエス・キリストに対する疑いの気持ちを持ったトマスが、実際に復活されたキリストに接して、確信を持てた様子から知ることができます。

イエスが入って来られ、中に立って「安かれ」と言われた。 それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、私の手を見なさい。手を伸ばして私の脇にさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」トマスはイエスに答えて言った。「わが主よ、わが神よ」イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たので信じたのか。 見ないで信ずる者は幸いである」

私が、社会人としての歩みを始めた年に洗礼を受けた時にも、私たちは、神様を目で見ることはできないけれども、イエス・キリストに従って歩んだ弟子たちが、復活されたイエス・キリストに出会ったことで、力を得て、確信を持ってキリストの証人となったことは、神様の存在を信じる大きな支えになりました。

そして、使徒行伝 1 章 8 節には、「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となるであろう」と書かれているように、キリストの存在の証人として、弟子たちは、エルサレムから各地に確信を持って出かけて行きました。 その弟子たちの力強い証しと、行いによって、キリストを信じたキリスト教徒は、社会の中では離散して寄留しているマイノリティであっても、神の国を求める心で、信仰生活を歩んできたのだと思います。

現在の日本においても、キリスト教徒はごく少数のマイノリティとしての存在です。キリスト教徒は人口の 1% も居ないかもしれません。私たちは、キリスト教徒ではない人に囲まれて生活しているのですが、必ずしもペテロの手紙が書かれた時代のように迫害を受け、職業を失って逃げなければならないわけではないと思います。その意味では、大変恵まれているとも言えます。

しかし、第二次世界大戦の中の日本においては、 キリスト教徒が信仰を守ることの難しい時期でした。人によっては、信仰の故に投獄されましたし、 自分の信仰を曲げなければならなかった人達が沢 山いたことでしょう。これは、あたかもローマ人 によって、キリスト教徒が迫害を受けていたのと 変わらないのかもしれません。信仰の自由が尊重 されている現代に生きる私たちには想像できない 苦難があったことと思います。また民主主義は弾 圧され、人権が守られなかったのが、戦時中の日 本でした。しかし、その中でも、復活されたキリストを信じ、堅く信仰を守ったキリスト教徒がた くさんおりました。

こうした苦難の後に、戦争が終わり、当時の日 本人のキリスト教徒が中心となって、アメリカの キリスト教徒の支援を受け、さらに多くのキリス ト教徒以外の人々と企業の寄付によって、超教派 のキリスト教大学として、ICUは献学されました。 ICU は未完の大学として、常に前進する、進歩 する大学を作りたいとの熱い思いを持って設立さ れました。 献学から間もなく、60周年を迎えよ うとしています。この間には、大学の運営面、キ リスト教に基づく教育の在り方、財政面など多く の問題が 起こりましたが、その時々の教員、職員、 学生、保護者、卒業生などの多くの人々の働きが あって、今日の ICU が存在しています。 私は、 初代学長の湯浅八郎先生も、初代理事長の東ヶ崎 潔氏も個人的には知りませんが、これらの先人は、 多くの困難に遭遇しても、何も無いところに、日 本と世界の平和と発展に貢献する「神と人に仕え る人材」を育成する大学を作るというビジョンと、 神様の導きによって、それぞれが持つ賜物を生か して、現在の ICU の基礎を作ってくださったの だと思います。

それでは、私たちは、自分がどのような賜物を神様から与えられているか、良く知っているのでしょうか。 私は、コンピュータのソフトウェアを作る技術者として会社で働き始めたので、自分に与えられた賜物は、コンピュータのソフトウェアを作る力だと思っていました。 しかし、神様から与えられた道は、技術者として生きる道ではなく、ビジネスの世界で、営業として、また管理者として生きる道でした。 ビジネスの世界においてもキリスト教徒はマイノリティです。 決して、初代の教会が作られた時代のような迫害を受けたわけではありませんが、私の周りの人の生活は、神の国を目指して歩む生活とは異なるものでした。

しかし、仕事の歩みの中で、岐路に直面した時に、神様は具体的に進むべき道を示してくださいました。 それが聖霊による導きだと信じています。 聖霊の働きは、聖書の多くの箇所で語られているように、大変具体的な進むべき道でした。 36歳で、初めて管理職になり、初めて営業も担当することになった大型の商談では、大変厳しい状況となりました。徹夜で仕事をすることもありましたが、ペテロ第一の手紙にあるように、自分には与えられた賜物があり、その賜物を生かして努力する時には、全ての結果は神様が用意していてくださるのだという確信に励まされました。 2年間の努力の後に、幸い受注に成功しました。

また、48歳で、日本アイ・ビー・エムの社長になった時も、日本アイ・ビー・エムの歴史の中で、初めての赤字決算をしなければならないような状況で、眠れない夜を過ごすこともありましたが、ここでも聖書の御言葉に励まされて乗り越えることができました。こうした苦労は、エルサレムを追い出された初代教会のキリスト教徒の苦労とは比較できないほど少ないものかも知れませんが、どんな時にも、自分に与えられた賜物を生かして努力することへの励ましとなりました。こうして、自分では思っても見なかった賜物を見出し、不思議な神様の導きによって会社の経営者となり、本日は、このICU教会で皆さんにお話しさせていただいているのです。

ICU はキリスト教徒ではない学生、教職員も 含めて、一つの共同体、いわゆる ICU コミュニ ティーを作っています。共同体ということは、そ の構成員である私たち、一人ひとり担わなければ ならない役割があるということです。

共同体の構成員は、それぞれが持つ賜物と経験、知識を生かして、互いに仕えあわなければなりません。教員は、それぞれが持つ賜物を生かして、教育、研究に励まなければなりません。それが使命なのです。職員は職員としてそれぞれの立場で、賜物を生かして創意工夫を行い、より良い大学運営を実現する使命があります。 運営を実現する使命があります。 また、理事も、そして私、理事長もそれぞれの賜物と、社会における経験、知識を生かして、大学の運営に貢献することが求められています。それが私たちの賜物を生かして歩む道なのです。学生は学生の本物である学に力を入れ、自らの賜物を生かして、社会に貢献する道を捜し求めることが大切な使命です。

現在のICUには、多くの課題があります。献学されて60年が経過し、本館、一部の学生寮、教員住宅、理学館等が老朽化しています。ICUの次の60年に備え、日本におけるリベラル・アーツ教育を本格的に実現するためには、リベラル・アーツ教育に相応しい本館の建設も必要だと思います。

さらに、世界で活躍できるグローバル人材を育成することも、我々の大切な使命です。そのためには、優れた教職員による少人数教育の充実が必要ですが、これを実現するための財政面での制約があります。また、ICUの優れた教育の成果が日本社会の中では、十分に理解されていません。さらに、キリスト教徒が少ない日本の現状の中で、教員に対する「キリスト者条項」をどう守って行くのかという問題もあります。

しかし、日本社会はICUが行っているリベラル・アーツ教育を必要としており、優れた教育環境を構築して、優れた学生を育てることは、私たちの大切な使命です。 60年前に、ICUを献学した先人たちは、何も無いところからICUを作られたのです。私たちは、常にその苦労を思い出さなければなりません。 ICU に連なる私たちが、それぞれが持つ優れた賜物を生かし、喜びをもって神様の示す道に従って、助け合うことによって、ICU は前進できるのです。

ローマ人への手紙8章28節には、「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」と書かれています。私たちは、それぞれの賜物を生かして、「未完の大学」を前進させる使命を担い、「神と人に仕える人材」を育てるために、次の60年に向けて力強く歩み出したいと思います。その行く手には、祝福された結果が備えられていると思います。

一言、お祈りをいたします。

ご在天の父なる神様

今日、私たちはこうしてあなたが建てられた ICU の献学 60 周年の記念礼拝を共にもつことが できました。 あなたが建てられたこの大学が、神と人に奉仕する人材を育てる大学として、日本 の社会の中で、そして世界の中で発展してゆく上に、どうかあなたのお導きを与えて下さいますように。

そして私たち一人一人この ICU に集う者が、それぞれが持つ賜物を活かし、あなたから与えられた賜物を使ってこの大学をさらにより良い大学として前進させてゆくこと ができますように、全ての道においてどうかあなたが導きを与えて下さい。そして私たちの労苦を癒して下さいますように。

ICU が次の 60 年に向かって力強く歩み出すように、どうかあなたの支えがありますように。

今日この時多くの人たちと共に ICU の 60 年の 歩みを祝い、そして次の 60 年に向かって歩み出 す、その大きなきっかけとなる礼拝をこうしても つことができたことを心から感謝いたします。

どうかあなたがいつも私たちの上にいて、この ICU の発展を支えて下さいますように。 あなた の導きと御恵みを感謝し、主イエス・キリストの 御名をとしてお祈りいたします。 アーメン Please visit the following URL if you would like to read the English version.

http://subsite.icu.ac.jp/anniv60/en/events/







ACUCA Student Camp 開催

8月20日(月) から8月24日(金) までの 5日間、ICU のキャンパスで、「2012 ACUCA STUDENT CAMP」が開催された。

ACUCA Student Camp とは 2 年に 1 度、ACUCA(The Association of Christian Universities and Colleges in Asia)加盟大学の学生が集まり開催するもので、今年は 8 つの国と地域(日本、香港、韓国、フィリピン、タイ、台湾、インドネシア、インド)の 41 大学から 100 名の学生と 1 名のスタッフが参加し、寮で生活を共にした。現在 ICU は ACUCA 幹事校を務めていることから、今年の Student Camp 会場となり、そのプログラムの企画・準備・実施は、高橋伸委員長を中心とする実行委員会と ICU 生 15 名の「学生アシスタント」が行った。

今年のキャンプのテーマは「ともに歩む明日を目指して〜私たちの夢、私たちのカ〜」。プログラム冒頭で行われた、山本良一 ICU Othmer 記念

STS客員教授(環境研究メジャー) が "Faith-based Sustainability - The Ethics of Eco-Theology and the Sprit of Natural Capitalism -" と題した 基調講演の後、学生たちはグループに分かれ、持続可能な社会の実現を目指して議論を交わし、今後の取組についてプレゼンテーションを行った。

その他、各国の学生が自国の文化を紹介し、お 互いの社会・文化を理解し合う Cultural Night と いったイベントや浅草寺・日本科学未来館への フィールドトリップなども催された。

最終日夜の Closing Ceremony では、キャンプ 期間中の議論で出された意見を集約した "Tokyo Appeal-Green Asia Grows on Awareness" が宣 言され、参加者は "Communication" "Education" "Network" を通じて、持続可能な社会実現への 意識を高めていくことを確認した。

4泊5日を共に過ごし、共に祈り、議論の後には共に歌って踊った学生たちは、夜遅くまで別れを惜しんでいた。

今後、ICU は今年 10 月に、ICU など 3 会場で Biennial Conference & General Assemblyを主 催し、2 年間の幹事校業務を終える。

ACUCA (The Association of Christian Universities and Colleges in Asia) とは

アジアのキリスト教主義高等教育機関の相互協力・質向上を目的として1975年に発足。現在は、日本、香港、韓国、フィリピン、タイ、台湾、インドネシア、インドの8の国と地域にある56大学が加盟している。主な活動としては、加盟校間の短期学生交流、加盟校の学生が集う Student

Camp 実施の他、加盟校から代表者が参加する Biennial Conference & General Assembly、 Management Conference を通して、加盟校が共 有する課題や運営について議論し、情報交換を行 うネットワークとしても機能している。

EVENT

湯浅八郎記念館 特別展のお知らせ

■特別展「絣(かすり)の技と美|

糸を模様に合わせて染め分け、織り上げた布、絣。 幾何学模様から、絵画的文様まで様々なデザイン を織ることができます。本展では主に日本の藍染 の絣を展示予定。

会期: 2013年1月8日(火)~ 3月15日(金)

なお、各特別展会期中に、本学学芸員課程実習生 によるギャラリーツアーの開催も予定しておりま す。詳細は湯浅八郎記念館までお問い合わせ下さ い。

問い合わせ先

国際基督教大学 博物館 湯浅八郎記念館 Tel: 0422-33-3340 Fax: 0422-33-3485 E-mail: museum-office@icu.ac.jp http://subsite.icu.ac.jp/yuasa_museum/

宗教音楽センター 演奏会・公開講演会のお知らせ

宗教音楽センターでは、2012年後半の講演会・ 演奏会を下記の通り予定しております。

■クリスマス演奏会

日時: 12月8日(土)

出演: 岩淵 恵美子 (チェンバロ・フォルテピアノ) 野々下 由香里 (ソプラノ) 福沢 宏 (ヴィオラ・ ダ・ガンバ) 他

開演: 15:00 (14:30 開場) 会場: 国際基督教大学礼拝堂

入場料: 2,500円

問い合わせ先 国際基督教大学 宗教音楽センター Tel: 0422-33-3330 E-mail: smc@icu.ac.jp

http://subsite.icu.ac.ip/smc/

訃報 Obituary

中内恒夫名誉教授(専門:国際経済学) 2012年 4月24日逝去。80歳。本学社会科学科(当時) 助手・講師、ハーバード大学大学院への留学を経 て、1966年に教養学部助教授に就任。その後、 1968年に準教授、1975年に教授に就任し、 1997年より本学名誉教授。在職中は、学生部長、 社会科学科長、国際関係学科長などを歴任した。

Tsuneo Nakauchi, emeritus professor in the field of international economics, passed away on 24 April, at the age of eighty.

Among his many roles at ICU, he served as Dean of Students, director of the Division of Social Science, and director of the Division of International Relations.

土橋信男・本法人元理事(北星学園理事長)

7月7日逝去。76歳。本学教養学部卒業、大学院教育学研究科修了(教育学修士)。シラキュース大学大学院博士課程修了(高等教育行政学博士)。北星学園大学文学部教授、同学長、札幌市教育長等を歴任した。

Nobuo Dobashi, former ICU trustee (chair of Hokusei Gakuen's Board of Trustees), passed away on 7 July, at the age of seventy six.

Professor Dobashi graduated from ICU, and received a master's in education from the ICU Graduate School. At Hokusei Gakuen, he was a professor and later president.

佐波正一本学名誉人文学博士 (本法人元理事長)

9月10日逝去。93歳。理事長就任期間には、日本経済が困難な時期にある中で、本法人の諸制度の見直しに着手されたほか、中長期経営計画を策定。また、キャンパスの諸施設の建設、募金活動の推進、創立50周年事業の実施など、多様な事業を完遂し、本学運営に多大な貢献をした。また、企業人として、そして日本を代表する財界人として、東芝株式会社代表取締役社長、日本経済団体連合会副会長、日本銀行参与など数々の団体の要職を歴任された。

Dr. Shoichi Saba, former Chair of ICU's Board of Trustees, passed away on 10 September. He was ninety-three years old. The twelve-year period Dr. Saba served as Chairman of the Board of Trustees was a difficult financial period for Japan, during which he took various steps to revise systems of ICU, including the establishment of mid- to long-range financial plans. With construction of various campus facilities, the promotion of development activities, and implementation of plans for ICU's 50th anniversary, and other diverse projects, Dr. Saba made enormous contributions to the operations of ICU.

As a man of industry and as a representative of Japan in the world of finance, Dr. Saba served in posts of various organizations, including President and CEO of Toshiba Corporation and Vice Chairman for the Japan Federation of Economic Organizations.

■「大学のページ」に関する問い合わせは、ICU パブリックリレーションズ・オフィスまで。

For inquiries about the pages "News from the University", please contact ICU Public Relations Office.

Tel: 0422-33-3040 E-mail: pro@icu.ac.jp http://www.icu.ac.ip/



「第2回ICU15期有志の会」報告

文:石松哲夫 (15)



齢(よわい) 64±1歳を中心とする1967年 入学の「第2回ICU15期有志の会」を2012年6 月23日八重洲富士屋ホテルで行いました。15期 (4月入学)は250名弱で、入学が7月に延期、 在学中の学校閉鎖などを経験し大学を巣立ちました。

次会のみ出席5名を加えた43名が集まりました。 小宮邦治勝手幹事長の挨拶、漆原道子さんの乾 杯で始まり、最初はセクション毎に分かれて着席 していましたが、すぐにそれぞれ懐かしい人たち

当日は9月入学生の方を含め、1次会38名、2

との話の輪があちこちで始まりました。1次会スタートの11時30分から2次会終了の午後4時までずっとこの雰囲気で、40数年ぶりに会い、お互いの変わった外貌のこと、卒業後のこと、ICU時代の話、参加していない友人の消息、先生、家族、そして自分の健康のことと話す内容はあち

こちに飛び談笑が続きました。

途中何名かの方が指名されて近況報告をされました。ハンブルグ(ドイツ)から参加の Fredrich 村上さんはドイツ住むことになった経緯や日本とドイツの相違を、日本でいちばん遠い熊本から参加された植田義浩さんは高校の美術部の先輩の美術館を創建したことを話されました。ここだけでは足りず3次会にも流れ8時まで続けた方もいたようです。会費の一部を大学及び「やまばと学園」に寄付させて頂きました。

事務方を一手に引き受けている勝手幹事長が3年 後の企画も意思表示をしましたので、15期の皆 さん可能であれば参加しましょう!

卒業30周年26期同窓会(ID82)

文=富岡徹郎(26 ID82)



お天気にも恵まれた 2012 年 6 月 23 日 (土)、 2 6 期中心で卒業 30 周年同期会が開催されました。ゲストも含めて 135 人(おそらく史上最高?)の同期生が集まりました。ICU ダイアログハウス食堂での 2 時間半の 1 次会は、絶え間ない思い出話や談笑で埋め尽くされました。

遠くはアメリカやタイ、香港からこのためにわざわざ来日した同窓生も。26 期生だけではなく、ID の近い方たちも参加してくれました。

盛り上がる中、グラウンド芝生化の募金の呼び かけや、同窓会グッズ販売もありました。

30年のギャップはすぐに埋めることはできず、あっという間に終了した印象の会は興奮さめやらぬまま。記念写真をとってから、半分以上の方が2次会のAlumni Houseへと移動しました。それでもまだまだ熱気はさめず、武蔵境での3次会、表参道での4次会へと繰り出していったメンバーも多かった様子です。

ゲストでご来場くださった風間先生、星野先生、 大学法人理事白石さん、ありがとうございました なお、今回の特別メニューとして、SKYPEを 通じてシアトルの奥村さんもネット参加してくだ さいました。

参加者募集の折には、Facebook で事前に多くの同窓生が繋がり、参加を呼び掛けたり、連絡を取り合いました。連絡の取れなかった行方不明者も、ネット上でみつかったりしました。26 期同期生は、ぜひ Facebook のグループ "ICU82(26期)" に参加してください。また同期連絡アドレスは、alumni.icu82@gmail.com です。メールを

いただければ当日の写真情報もお送りします。 また5年後に会いましょう!

ID91 (35期) REUNIONご報告

文:隈本 純(35 ID91)



ID91のREUNION、卒業20周年記念同窓会が、2012年3月10日(土)、キャンパス新大学食堂にて開催されました。3月といってもまだ肌寒い天候。それでも、卒業後初の同窓会と2次会には、ID91同窓生とその家族、あわせて91人が全国各地から集まってくれて盛大な会となりました。

当日は、数名の幹事が昼前から集まり小雨が降るなか会場の準備。あいにくの天候に出席状況を心配しながら会場の準備を進めました。当日はID85の工藤さんがご協力してくださり、Ustreamに同窓会の様子をリアルタイムで配信することができました。

会が始まる頃には会場は懐かしい顔でいっぱい!「かわんないねぇ」「おい、老けたな (笑)」なんて声があちこちであがり会場は一気にヒートアップ!幹事一同、この会を企画して本当によかったなと思える瞬間でした。

この日はゲストに鈴木典比古先生(会当時 ICU 学長)が駆けつけてくださいました。先生が ICU に着任されて間もない頃に私たちが入学してきた ということで、先生を囲んで当時の懐かしい話で 盛り上がりました。

また、会が最も盛り上がったのは、コウタ&ハナとアッコによるダンスパフォーマンスでした。当時の懐かしいダンスミュージックにのせてあの頃流行ったダンススタイルを披露。会場のみんなも20年前にタイムスリップしてノリノリ♪でした。最後に全員で集合写真を撮影し無事に同窓会が終

写真/大間哲(34 ID90)

了しました。その後アラムナイハウスに移動して 二次会。二次会から参加してくれた仲間もたくさ んいて本会に劣らぬ盛り上がりでした。そして次 回は5年後の25周年!と盛り上がって散会しま した。

みんなありがとう!また会おうね。

「第18回 ICU心理臨床家の集い」

文:渡辺暁里(40 ID96)



2012年2月19日(日)、アラムナイハウスにて『第 18回ICU心理臨床家の集い』が開催されました。 卒業生・修了生を中心にICUと縁の深い方も含め、心理臨床に携わっているメンバーの相互研鑽 と親睦を図るネットワークとして、毎年集いの場 を持っています。

昨年度、第 17 回となるはずだった前回が東日本大震災の影響で開催直前に中止となったため、今回は 2 年振りの開催でした。『この一年に思うこと』というテーマの下、第 1 期卒業生から2008 年修了生まで22 名が集い、再会を感謝し、自分たちのルーツを感じ、心理臨床家としてこれから取り組んでいく仕事の大切さを確かめ合う会となりました。

立食しながら歓談の後、田代順さん(G1986)から話題提供があり、震災当日に京都でリフレクティング・プロセスを用いたディブリーフィング・グループを運営された経験が語られました。その発題を契機として、参加者それぞれの一年が語り合われました。心理臨床家としてまさに今取り組んでいることの話あり、学生時代の思い出話ありと、ICUで学び社会で活躍する仲間の、幅広さと、

歴史の積み重なりを実感しました。また、メンバーひとりひとりの活動の基礎に ICU 時代の経験が感じられたり、同窓の仲間の中で普段とは違う表情を見せるメンバーがいたりするなど、この会ならではの体験となりました。

終了後は、ダイアログハウスに移転した ICU カウンセリングセンターの見学を行いました。アラムナイハウスから本館前を通り、新旧 D 館を抜けてダイアログハウスへ向かう道は、それぞれの記憶の ICU と現在の ICU が交差する、わずかな時間ながらも味わい深い散歩となりました。

次回は、2013 年3月頃にICUで開催の予定です。心理領域で働いている卒業生・修了生のみなさまも、しばらくご無沙汰しているみなさまも、ぜひ来春のICU心理臨床家の集いでお会いしましょう。(お問い合わせ:ICU心理臨床家の集い事務局 icutsudoi@yahoo.co.jp または0422-33-3632)

デンマーク支部会開催報告

文:谷口聡人(23 ID79)



昨年(2011) 11月26日(土) 夕刻、D支部会長高橋ベンソン久美さんの呼び掛けで、コペンハーゲンと近郊に在住する6人に、対岸のスウェーデンからも3人が参加。同窓生は9人でしたが3人はカップルでの参加でしたので12人が集う賑やかな会になりました。久美さんとご主人が用意してくれた美味しい料理に極上のワイン、世代は違ってもICUでの学びと生活が結びつけてくれる安心感に浸りながらの会話は尽きず、北欧の長く楽しい一夜となったのでした。

ボストン支部設立

文:平井利長 (32 ID88)



10月17日に開催された同窓会理事会において、満場一致でボストン支部の設立が承認されました。 今後は、年1回程度の総会に加え、折々の交流会 を開催していく予定です。

米国ニューイングランド地域にお住まいの方で、未だご連絡を頂いていない方は、ぜひ同窓会ボストン支部

がストン支部

くboston-chapter@icualmni.com>までまでお知らせください。

会長(名誉職): 竹内 弘高(13) 支部長: 宮川 繁(19)

美術部OB会の同窓会支部設立

文:岩田岳久(21) 美術部支部長



写真の集まり後、世代も拡張中です。美術部OB会は電子掲示板設置やイベントで活動を広げ、ICU 同窓会支部化が承認されました。参加をご希望の方は、

bijutsubu-chapter@icualumni.com>までご連絡ください。

<今後のリユニオン記事について>

「アラムナイハウスから」のページにて掲載してきましたリユニオンの報告ですが、今後につきましては、一部同窓会 WEB への掲載をもって代えさせていただく予定にしております。

ご寄稿は今まで通り、同窓会事務局あてにお送り ください。アラムナイニュースでは、いただきま した支部等の記載をさせていただきます。

MISSING たずね人

深見 淳(43 ID99)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

1970年代、教育哲学科大学院に在籍していらした台湾からの留学生、チンさんと連絡をとりたいと思います。台湾のナショナルバスケットチームの一員、牧師さんでした。中川先生のアドバイジーでした。情報をお待ちしております。
1978年教育哲学大学院修了 堀 元子(18)

連絡先 TEL: 044-954-6879 または

044-966-5131

ORBITUARY 訃報

山野 政光(1)

村田 誠吾(2)

土橋 信男(5)

森 裕 (8)

(同窓会WEBにも訃報ページを新設いたしました。詳細は事務局までお問合せください。)

来年卒業 25 周年を迎えられる 32 期(ID88)の皆様

32期 (ID88) の皆様は、2013年3月・6月に卒業25周年を迎えられます。せっかくのこの機会に同期会を開催しませんか? 幹事役を買って出てくださる方がいらっしゃいましたら(個人でも・グループでも)、ぜひ同窓会事務局までご連絡ください。連絡用宛名ラベルの出力など、支援いたします。

リユニオン幹事の皆様へ

同窓会事務局ではお問合せがあってもご本人の同意なく同窓生の連絡先をお教えすることが出来ませんが、「リユニオンのお知らせ」の郵送物を転送するという方法で、実費にて連絡のお手伝いをすることが出来ます。詳細については事務局までお尋ねください。

支部アドレス

同窓生から各支部への参加希望や問合せのための 専用アドレスを作りました。詳しくは同窓会 HP でご確認ください。

■大学・同窓会に関する情報が満載です。

ぜひ一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

大学ホームページ http://www.icu..ac.jp/ JICUF ホームページ http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320
Email: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フル サイズ 6 万円、ハーフサイズ 3 万円 で承っております。ご興味のある方は、 詳細を事務局までお問合せください。

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオン等の案内・報告をお 寄せください。本誌およびホームペー ジに掲載いたします。

★ ICU 同窓会とは関係のない名簿業 者にご注意ください!

「人事新報社」という業者から名簿の 申込みの往復はがきが郵送されている ようですが、この業者は ICU とも ICU 同窓会とも一切関係がございま せん。個人情報の流出にはくれぐれも ご注意ください。

★ 同窓会名簿について

同窓会名簿は 2006 年に発行されたものが最後となります。まだ在庫がございますので、購入をご希望の方は事務局までお問合せください。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際は同窓会ホームページの住所変更、メール (aaoffice@icualumni.com) ま た は FAX(0422-33-3320) で、ご一報ください。地方・海外にご転勤の際には同窓会ホームページ支部一覧をご参照ください。

★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝=大学への支援という考え 方から、同窓生の著作、雑誌インタ ビューなどには、略歴欄に「国際基督 教大学卒業」とお入れいただけますよ う、お願い申し上げます。

★ 四季が綺麗な ICU キャンパス。足 を運ばれた際にはアラムナイハウスへ お気軽にお立ち寄りください。

100 円にてコーヒー・紅茶をお出しし ております。

なおラウンジ使用中にはご要望に沿えない場合がございます。

ラボこども英語 指導者募集中 (45 才位までの女性)

「仕事で使っていた英語を子育てにも生かしたい」 「自宅でわが子と楽しみながらできる仕事がしたい」 「学校とは違う楽しい英語環境を子どもにも与えたい」

子育てしながらもう一度、 自分を輝かせる仕事があります。

「ラボ・テューター」 になりませんか?

絵本・物語、そして子どもが大好きなあなたに、 ぴったりの英語を生かしたライフワークです。

ラボ・テューターは絵本や物語を英語と日本語で楽しみながら、子どもの言語力・社会力・ 国際コミュニケーション能力を育む教育活動「Labo Party」の指導者です。

詳しい資料があります。今すぐには無理な方も、将来きっとお役に立ちます。少しでも関心 のある方は資料をご請求ください。



(Yahoo,Googleで「ラボ・パーティ」と ホームページから) 検索ください) 右記のQRコードからアクセス 「きっかけ」欄に「ICU」と入力ください。

携帯電話から



3 0120-808-743





株式会社ラボ教育センター 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル

意外な情報に出会う場所、 新しくなった同窓会WEBサイト。

同窓会のWEBサイトがリニューアルして1年。

多くの方に記事を投稿して頂いており、記事件数がリニューアル前の2~3倍に増えている。 同窓会からの情報だけでなく、期やサークルのリユニオンの案内、卒業生による出版やイベントなどに、 懐かしい名前を見つけたり、意外な出会いが広がるチャンスが見つかるかも。

まだご覧になっていない方は、ぜひ一度訪れてほしい。

文:岡田庄生(学生部 副会長)

http://www.icualumni.com/



• ICU Alumni email service

ICU Alumni email service については、こちらから。 ログインや初期設定方法など、 @icu.jp の使い方について紹介 しています。

●イベント案内・報告

同窓会各支部会や、卒業年度、 会社、部活、サークル単位での リユニオンなど、各種イベント の案内告知と事後報告を掲載。 懐かしの同窓生に会えるチャン スが見つかるかも。各イベント の幹事役の方、ぜひ案内や報告 の記事をお寄せ下さい。

●アラムナイニュース

アラムナイニュースの主な記事 を掲載。(2011 年度以降に発行 したものに限る。過去のバック ナンバーは事務局にて保管中)

●同窓会について

アラムナイハウスの利用方法や 料金なども掲載。リユニオンな ど各種イベントにぜひアラムナ イハウスをお使い下さい。

● アラムナイ掲示板

「本を書いたので同窓生に読んで欲しい」「会社で人材を募集している」など、ICU同窓生であれば、個人的な宣伝が可能。 掲載には事前に事務局による文章のチェックが必要です。

STAFF

EDITOR IN CHIEF

斉藤ようこ Saito, Yoko(33 ID89)

EDITORS

望月厚志 Mochizuki, Atsushi (26 ID82) 栗山のぞみ Kuriyama, Nozomi (34 ID90)

橋本明子 Hashimoto, Akiko (35 ID91)

樺島榮一郎 Kabashima, Eiichiro (37 ID93 G1997)

岡田庄生 Okada, Shoo(47 ID03)

森川幹人 Morikawa, Mikito (47 ID03)

野仲裕子 Nonaka, Yuko(48 ID04)

中部優子 Nakabe, Yuko(50 ID06)

清水 裕 Shimizu, Yu(50 ID06)

小林智世 Kobayashi, Tomoyo(52 ID08)

PHOTOGRAPHERS

青地あい Aochi, Ai(42 ID98)

一之瀬ちひろ Ichinose, Chihiro (42 ID98)

ART DIRECTOR

佐野久美子 Sano, Kumiko(44 ID00)

THANKS TO

榊巻日奈子 Sakamaki, Hinako

PRINTING DIRECTOR

杉浦健一 Sugiura, Kenichi(小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

谷 摂子 Tani, Setsuko(33 ID89)

PUBLISHER

永渕光恵 Nagafuchi, Mitsue(21 ID77= 海老原)

発行の遅れに関してのお詫び

本来ならば、10月にみなさまのお手元にお届けすべき今号の発行が、大きく遅れましたことを深くお詫び申し上げます。特に、ICU 祭における同窓会行事の告知や紹介に関しましては、原稿をご用意頂いたにもかかわらず、お伝えできないこととなりました。参加を検討されていた同窓生の皆様ならびに、貴重なお時間を割いて原稿をご執筆された方々には改めてお詫び申し上げます。今年4月の理事の改選およびアラムナイ・ニュースを担当する広報部員の交代により、今号から新体制となりましたが、それに伴う混乱により、発行が大きく遅れる結果となりました。今号の反省を生かし、体制を改善して、次号以降の編集・発行に臨む所存ですので、今後とも、みなさまのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

広報部長代理 理事(37期) 樺島榮一郎

